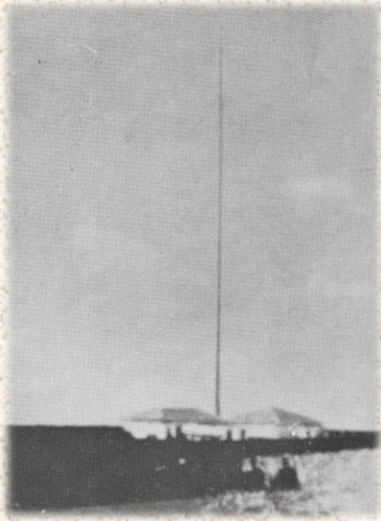


旧落石無線電信局（根室市）

落石無線電信局は日本で無線による公衆電報の始まった

明治四十一年に、北海道で唯一の海岸局として開局し、大正四年には国内で初めてカムチャツカのペトロパブロフスクと国際無線電信業務を開始しました。当初は送信と受信の施設を落石に置いていましたが、無線電信取り扱い件数の増加に伴い、大正十二年には送信所と受信所を分離し、送信所は落石に残したまま受信所を根室町桂木（今の光洋町）に移設しました。また、昭和四年にも日本で初めてツェッペリン伯号との無線通信を成功させ、昭和六年にリンドバーグ夫妻が根室に飛来した際は、千島列島の悪天候の中、リンドバーグ機を無事に根室港まで誘導しました。



開設当時の落石無線電信局
「北海道無線のあゆみ」



現在の落石岬にある
旧落石無線電信局

昭和二十四年に電気通信省の発足により「落石無線電報局」と改称され、昭和三十四年には、落石に残されていた送信所を桂木に移設し、全ての施設が桂木に移りましたが、「落石無線電報局」の名称は昭和四十一年に電報局が廃止されるまで変わらずに残りました。現在、遺構として残された落石無線電信局跡は落石岬にあるもので、昭和六十年から根室出身の版画家、池田良二氏（武蔵野美術大学教授）の個人スタジオとして活用されており、平成二十年からアートプロジェクト落石計画の会場となっています。

明治四十一年 (1908)	落石無線電信局開設
大正四年 (1915)	日本で最初となる国際無線業務を開始
大正十二年 (1923)	送受信分離 ・落石岬突端の旧電信局から二キロ内陸に落石送信所を新設 ・九十メートル鉄塔四基設置 ・落石無線電信局（根室受信所）を根室町桂木（現在の光洋町）に移転
大正十四年 (1925)	落石送信所、火災により局舎焼失（仮設庁舎で業務継続） 樺太・オハと無線連絡開始
昭和二年 (1927)	落石送信所を再建（鉄筋コンクリート平屋、現存） 日本で最初の短波無線送信業務開始
昭和四年 (1929)	世界一周を目指していた飛行船「ツェッペリン伯号」との間で、日本国内初の無線連絡に成功
昭和五年 (1930)	択捉島紗那局と固定通信業務開始
昭和六年 (1931)	北太平洋航路調査のため根室を目指していたリンドバーグ機と通信連絡に成功
昭和八年 (1933)	色丹局と固定通信業務開始
昭和十九年 (1944)	志免島と多楽島で無線電信業務開始
昭和二十年 (1945)	根室空襲で大きな被害を受け、桂木の受信所で臨時業務開始 ソ連軍の択捉島上陸の第一報を受信
昭和二十四年 (1949)	電気通信省発足により桂木の「落石無線電信局」を「落石無線電報局」と改称
昭和二十七年 (1952)	日本電信電話公社発足
昭和三十四年 (1959)	落石送信所を桂木の落石無線電報局（根室受信所）の敷地内に移設、根室送信所となる ・落石送信所の九十メートル鉄塔撤去
昭和四十一年 (1966)	落石無線電報局が札幌中央電報局に統合 ・根室送受信所の無人化により、落石無線電報局を廃止

旧落石無線電信局（根室市）（その二）

表札



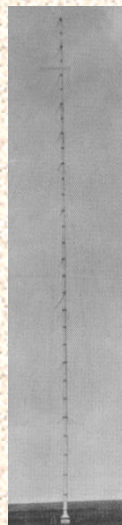
「日本電信電話公社 根室無線送信所」の表札（右）
 落石岬にあった「落石無線送信所」が桂木に移設され「根室無線送信所」となったのは昭和三十四年。桂木の「落石無線電信局」内の送信所の表札「日本電信電話公社（現NTTの前身）」の記述もされている。

「落石無線電信局」の表札（左）

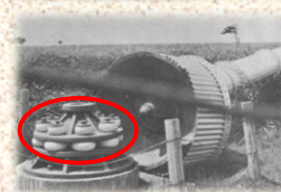
根室町桂木の根室無線電信局の門柱に設置されていたと考えられる表札。
 桂木の無線所が「落石無線電信局」から「落石無線電信局」と改称された昭和二十四年当時から施設の顔として設置されていたのかもしれない。
 昭和四十七年発行の「北海道無線のあゆみ」には、昭和四十一年の電報局廃止時に外されたことが記されている。

九十メートル鉄柱用絶縁碍子（がいし）

昭和三十四年に桂木に移設されるまで落石送信所のシンボルとも言われた九十メートル鉄柱。



この鉄柱の絶縁体として使われていたものが左の碍子（がいし）。
 直径二十九センチメートル、重さは十四キロほどもある。
 九十メートル鉄柱は撤去されたが、漬け物石を兼ねて記念に保存している落石の関係者が何人かいたとのこと。



◆所在地地図

旧落石無線電信局
 （現 池田良二氏スタジオ）
 【住所】
 根室市落石西244-4

